



テーマ
中高年

「言葉」と「仕事」外国人妻たちが安心して生活できる環境をつくる

特定非営利活動法人 笑顔のお手伝い

大好きな日本で暮らし続けたい。
被災した外国人妻たちが仕事に就けるよう、日本語と職業訓練の教室を開く費用を支援してください。



特定非営利活動法人
笑顔のお手伝い
丸川いづみ

中国ハルビン出身。母親の再婚相手が日本人だったことから17歳で宮城県に移住。1児の母。2012年3月から外国人被災者の支援を続ける。「宮城県は私の誇れる故郷」

嫁不足の農村・漁村にきた外国人のお嫁さん

2010年12月時点で宮城県には約16,000人の外国人が住んでいました。そのうち約10%を占めていたのが日本人の配偶者、多くは日本人男性と国際結婚した外国人女性です（法務省ホームページより）。永住資格を得た人数、また統計に現れない人数も含めると外国人妻の割合は約30%にのぼると推計されています。嫁不足に悩む農村・漁村に嫁いでくるのは、主にフィリピン、中国、韓国からのお嫁さんです。様々な個人的理由と経緯があって共に暮らすこととなりますが、結婚生活をよりよいものにし、地域で一緒に子育てをしようと真摯に向き合う夫婦がたくさんいます。

そういった外国人妻たちが抱える大きな問題は言葉の

壁です。震災前からあったこの問題は、被災による家族、財産、生活手段の喪失という出来事をへて、外国人妻たちの生活をますます困難にしています。幼い子どもを抱え、旦那さんを失くして途方に暮れる女性もいます。避難所で差別されたり、役所からの通知書類が読めずに支援を受けられないなど痛ましいSOSがたくさん届きます。家族は無事だったとしても日本人の旦那さんが高齢であるため、今後外国人妻たちが一家の生活を経済的に支えていかなければならないのです。

仕事に就くための日本語教室

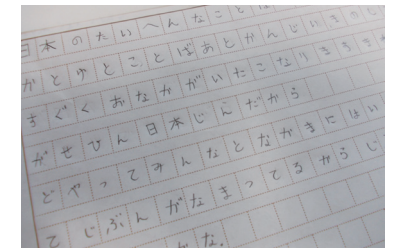
2012年6月から、特に被災した外国人妻が多い南三陸町と石巻市で日本語教室を始めました。フィリピン、韓国、インドネシアなど国籍はさまざま、毎回10人から15人が講座に集まります。また、ホームヘルパー2級資格取得のための日本語教室も行っています。日本語の先生と現役の看護婦さんが、挿絵入りの手作りプリントと身振り手振りで丁寧にヘルパー用語を教えてください。被災した外国人妻たちが一日でも早く仕事に就き、経済的に自立できるようサポートするのが私たちの使命です。

海を越えて異国に渡ってきた外国人妻たちはもともと大変なバイタリティをもった女性たち。地震で家が壊れ、津波で家族や家を失いながらもこの地に残り、前に進もうと頑張っています。外国人妻たちが東北に残り、将来にわたり、家族や地域の方と幸せに暮らしていけるよう、日本語教室を継続したいと考えています。

被災した外国人妻たちの経済的自立のための日本語教室継続にご協力ください。

📣 日本語講座に参加するフィリピン出身の女性の声

じしんがあつて介護のべんきょうをすることになりました。さいしょはたいへんでしたが、たのしくなってきました。いろいろべんきょうしたいです。
(本人が書いた作文より)



目標金額 **115万円**

寄付特典

📄 5,000円寄付すると

1年間の事業の様子を報告する年次報告書と画家・中島ゆたか作絵はがき2枚をお届け。

📄 10,000円寄付すると

1年間の事業の様子を報告する年次報告書と画家・中島ゆたか作絵はがき3枚、シオリ1枚をお届け。

📄 30,000円寄付すると

1年間の事業の様子を報告する年次報告書と画家・中島ゆたか作絵はがき10枚、シオリ3枚をお届け。

特定非営利活動法人 笑顔のお手伝い (理事長：千葉義信)

所在地：宮城県仙台市

事業地：宮城県気仙沼市、南三陸町、石巻市、仙台市

ホームページ：www.npo-egao.x0.com

フェイスブック：on.fb.me/ZfNF8L

【銀行】七十七銀行 本店営業部 (普) **9503609**

一般財団法人地域創造基金みやぎ 代表理事 大滝 精一

【郵便】記号 **02270-3-134826**

一般財団法人地域創造基金みやぎ 通信欄：日本語

クレジット・現金書留でも受け付けております ⇒ 14ページ参照